

NOVEL ONLY  
R  18

18歳未満の購入・閲覧禁止







そこまで！  
後片付けと各自ストレッチは  
忘れないように

黒子っちー  
大丈夫っスか？



えっ何？黒子っち  
オレに何かしてほしいの

君、随分変わりましたね…

そうっすか？

？。。









19  
19  
19

…話が違うぞ

やり方が悪いのだよ  
だあれでは黒子が困る


むっ

くる…

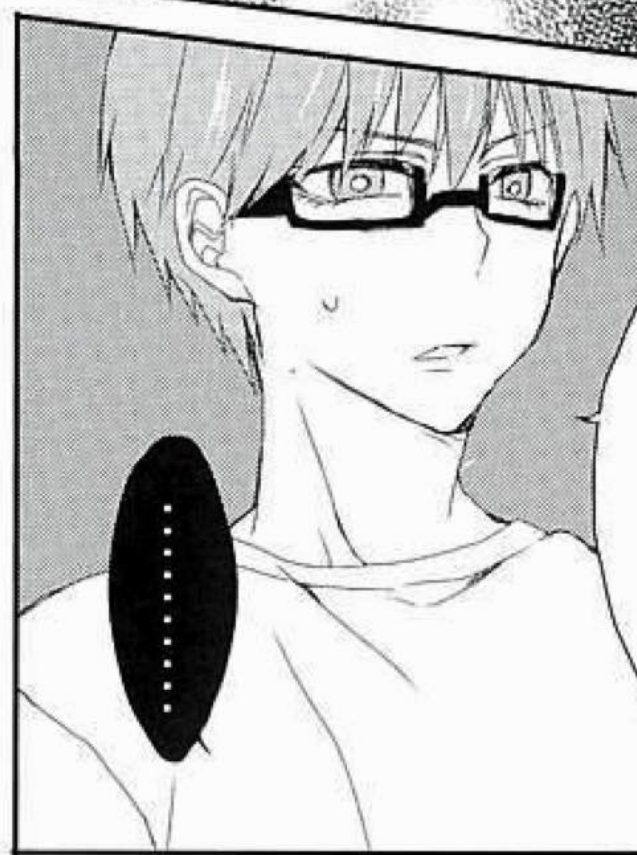
ほーら、何してんスカ  
早くシャワー浴びないと  
授業始まっちゃうスよ？

あはい







何がだ？  
オレと黄瀬の何が  
違うというんだ



…少しおかしいぞ  
お前が黒子の反応を見たから  
といって得はないだろう



…そうだな

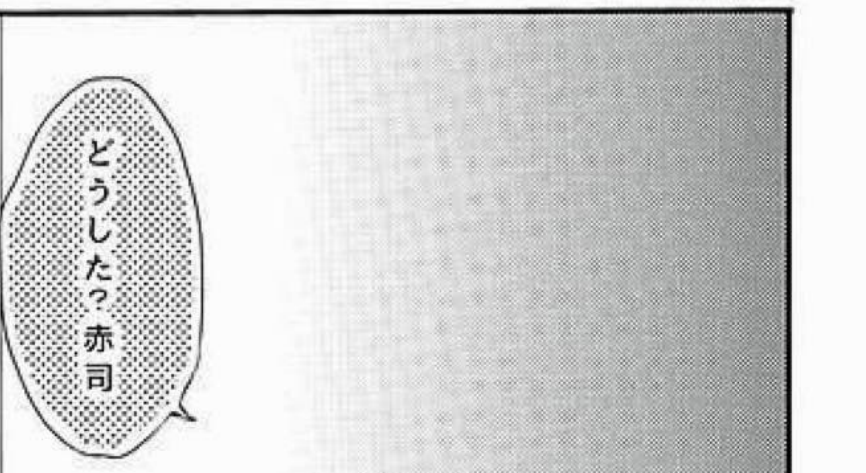


悪い、忘れてくれ











む...人がえが...

そうか

大丈夫だ、緑間  
水がいきなり出てきて  
驚いたただけだ

いえ...あ、ボク  
もうあがるので  
このまま使ってください

そうか  
ありがとう

はい...

すまない  
黒子...

ニヤ









キーン  
コーン















黒子

えっと...

しっかり食べて  
体をつくれと言っただろう

...そう言われても  
これ全部はちよっと...



まさかそれ全部  
残すつもりじゃ  
ないだろうな?

ギョッ



仕方ない



これだけほう  
大目に見よう

!

ありがとうございます





えー赤司っち  
黒子っちに甘くないスか？



今日の朝練黒子は  
一度も吐かなかつたからね  
その分大目に見ただけだよ

ちえー

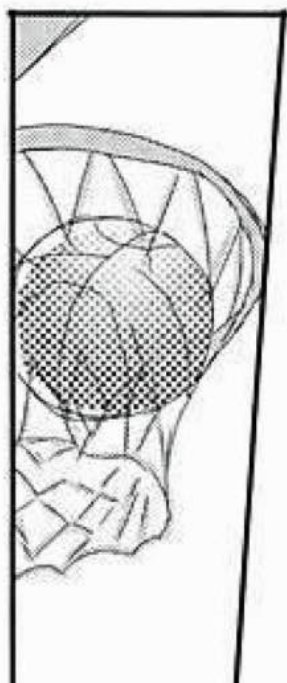
.....



...赤司

なんだ？

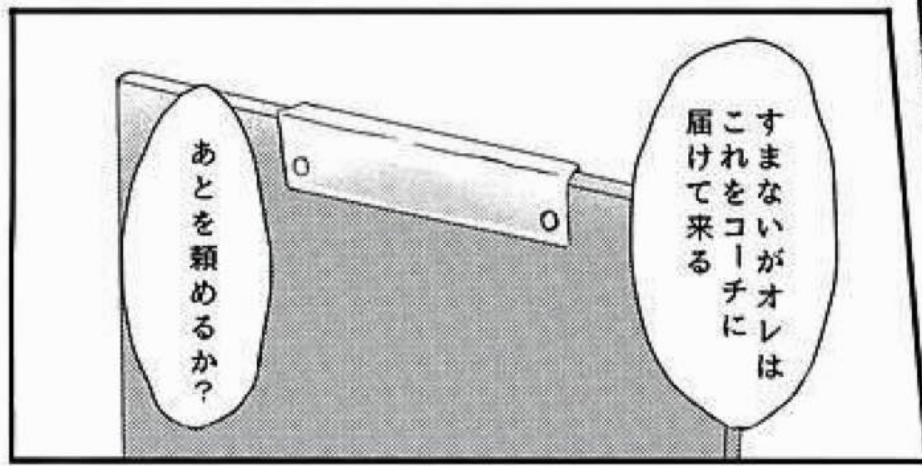










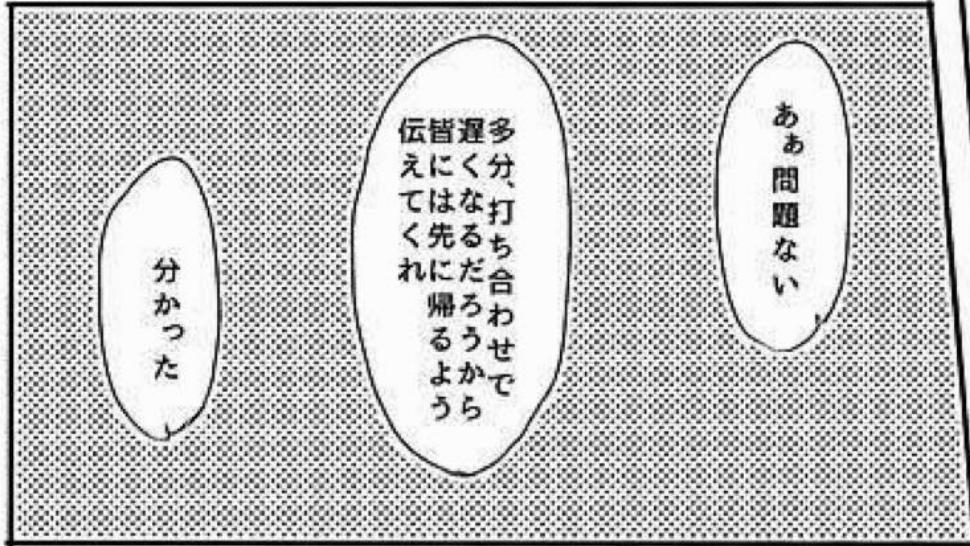


すまないがオレは  
これをゴーチに  
届けて来る

あとを頼めるか？



線間



ああ問題ない

多分、打ち合わせで  
遅くなるだろうから  
皆には先に帰るよう  
伝えてくれ

分かった



何だ？

やはり後でいいや

っ、そうか



赤司！

.....





—失礼しました

だいぶ暗くなってきたな...



お前、シャワーまだだったろ  
施設さえ最後してくれれば  
開いてるぞ



ご苦労さん  
お前よ最後だ

ありがとうございます



おう、赤司

虹村さん







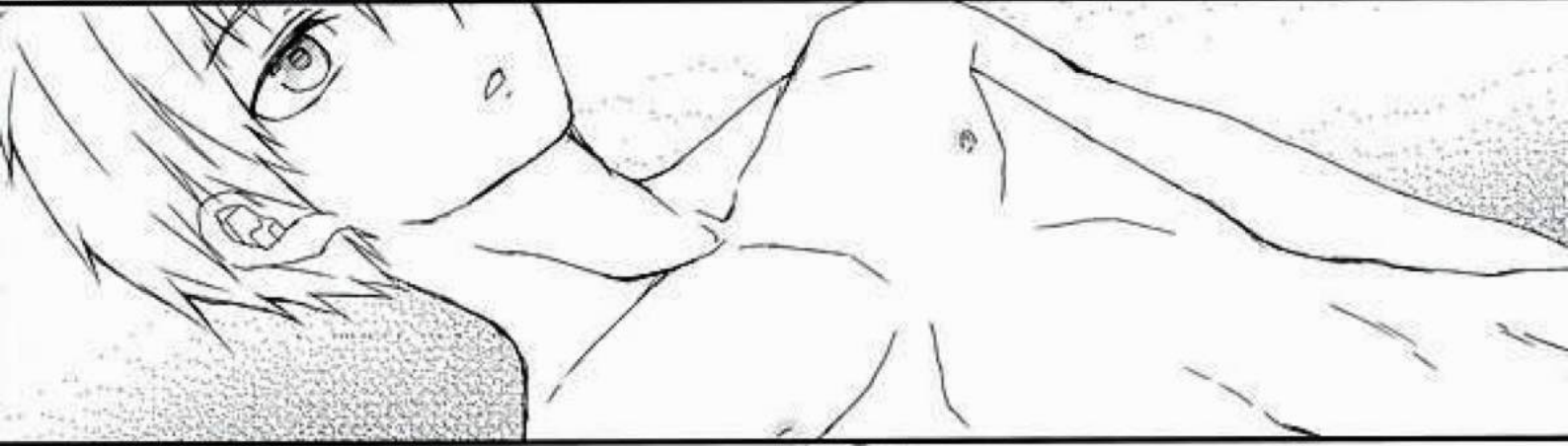


なぜ黒子が  
気になったのだろう…



黄瀬の態度の変化か…

それとも…







確かにか弱い印象はあったが

実際見ると筋肉は  
ほとんどついてないようだった

そしてあの  
白い肌…



いやいや落ち着けオレ  
相手は男だ…!!



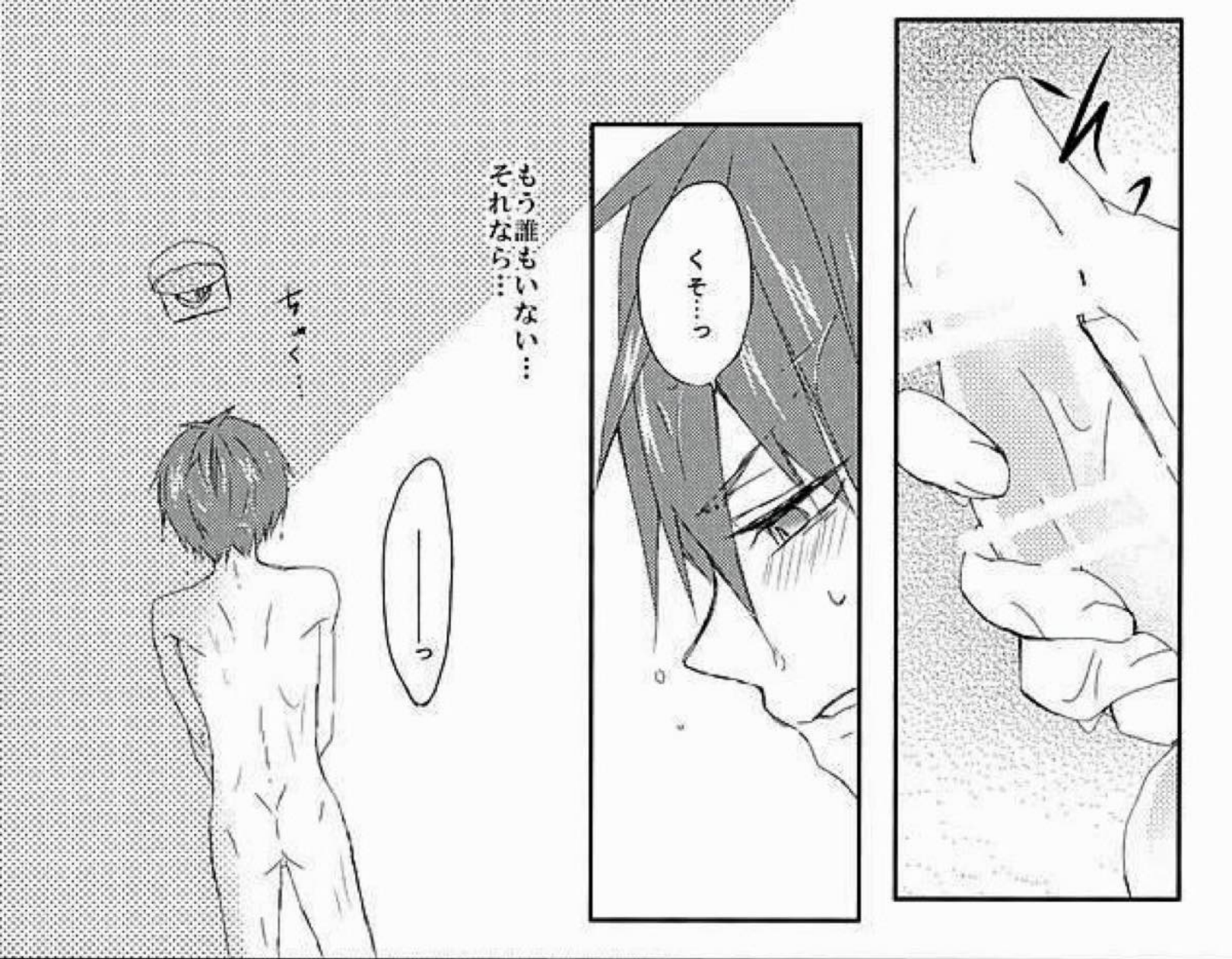


だから  
どうして…！



最近忙しかったから、  
処理がおろそかになっていた…  
…そうだ。





もう誰もいない...  
それなら...

くそ...



あゝ...

...





!?



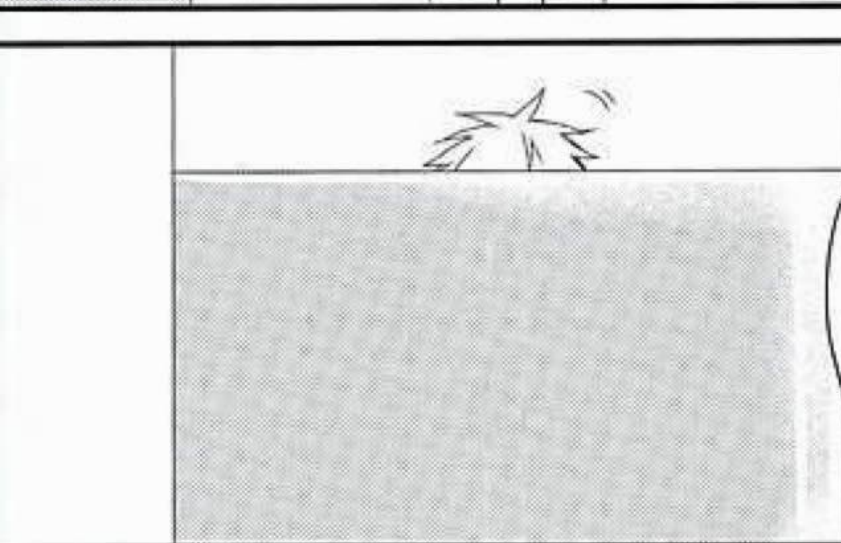
はい?



それが部室で休んでいたら忘れられたみたいで...

皆と先に帰ったはずでは...

なんで...お前が...



そしたら赤司君がシャワー室に向かうのが見えたので

ボクもまだでしたし便乗しようかなと



ピッ

カッ

カッ





赤司君すみません  
ボディソープが…

まずい

何てタイミングだ…  
ここは早く…



ボク…

あ…  
すみません



待て

っお邪魔でしたね





…だったら

その…  
生理現象ですし…

大丈夫です  
ボク、何も見てません  
でしたから…!!



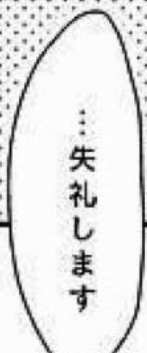
手伝ってくれないか



えっ











アムゴロ

こうなった?!

えっと...



どう...ですか?



アムゴロ





まずい...

このままでは...



ぬるっ



クッ



すみません...  
なんか上手くできなくて



やっぱりここは口で  
した方がいいんでしょうか...

は





.....

あすみません  
やっぱり気持ち悪いですよね  
男にこんなことされて...

いや、ちがう！  
その...

それなら  
太股を貸してくれないか



えっふともも？  
かまわないですけど



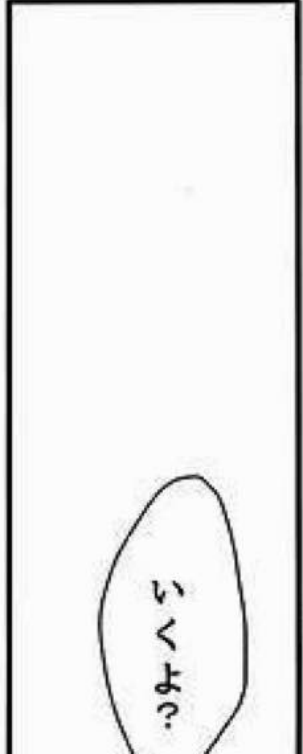
ありがとう

じゃあ足を閉じて  
壁に手をつけてて？

こう...ですか？



そう...そのまま



いくよ？





やい...  
な... あ... あい...

びち

ん

!!

やわらかい...

びち

やい

びち





ひゃっ！

あ…

ひゃっ



だめ…赤司く…  
これ…っ



ごめん…  
少し我慢して



あっ

ぬる

ん！

ぬる

ちゅ  
ちゅ  
ちゅ









!?

黒子...?

はあ...



...すまない  
大丈夫か?

だい...じょうぶです

はあ...



本当にすまない  
こんなことして





こうなることを  
望んでたんですから

——温うんです  
……ボクは



ど  
そ  
れ  
は  
い  
う  
……

えっ



……好きなんて

……





ボクは君のこと  
好きなんです！

だから触れてもらえるのが  
嬉しくて…もっと  
そばにいたくて…

それで…

ああ、そうか

こんなことして  
君と特別な関係にだなんて  
するいはわかってます

だから

でも、ボクは  
君とまともな目すら  
合わせられない…

これがチャンスだと  
思ったんです

オレは…

ごめんなさい





オレもだ

ずっとわからなかった  
黒子を見ていると  
落ち着かなくて...

他の奴らに  
触れてほしくなかった

何故そう思ったのか...

でも、やっとわかった

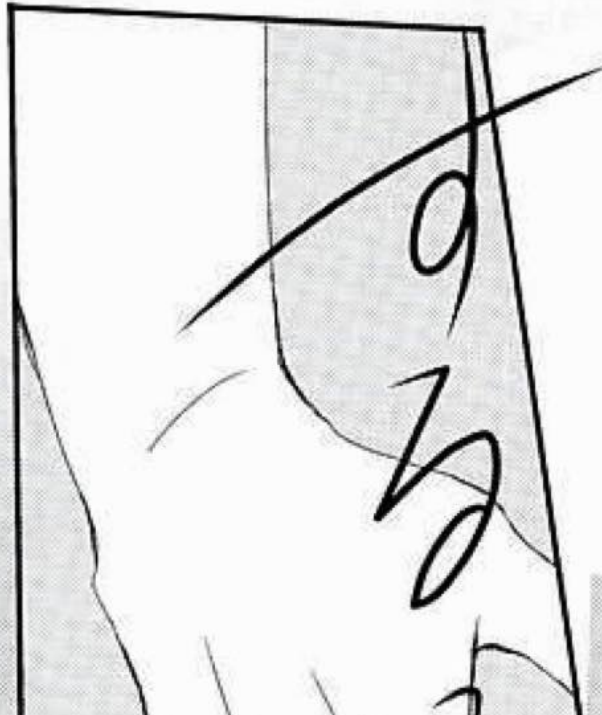
!



好きだ



赤司く…



んっ











あ...ん...

あ

あかしく...

あ...ん...

あ...ん...

あ...ん...







黒子  
愛してる

ボクも

あいしてます







